障害関係なく生きる力を

あま市 木田幼稚園、国内初 一般園児と同じ学び

あま市の木田幼稚園は今春から、発達障害などを抱える園児が他の園児と同じ教室で学ぶ「フルインクルーシブ教育」を始めた。児童指導員の資格を持つ教諭らが、マンツーマンで障害を持つ園児の生活を援助する。国内の幼稚園では初めてといい、障害に関係なく生活する力を身に付けることを目指す。（古田幸雄）

5月下旬、教室で自閉症スペクトラムの男児が、周囲と一緒に手を挙げながら、大きな声で「はーい」と答えた。気が散りそうになると、職員と目を合わせながら座り直した。職員は男児の近くの女児にも「教えてあげてね」と優しく声をかけ、女児は手を差し伸べながら与えられた課題のやり方を教えていた。

保育士や指導員の資格も持つ教諭(27)によると、着替えができなかった3歳児が1カ月ほどで、服を脱ぐことができるようになった。現在は着替えができるように挑戦している。教諭は「子どもによって成長の段階が違う。周囲の子どもたちも、そんな子どもを助けたり、待ってくれたりするようになった」と園児らの成長を感じ取っている。

年少から通う園児の1人は、発達障害を疑われるようになったが、年中となった今も園で生活する。父親(42)は「通園できるのかと心配していたら、今回の取り組みを教えられた。友だちの輪に入って話しかけたり、できることが少しずつ増えている」とほっとした様子で話す。

従来、発達支援は厚生労働省が担い、文部科学省が認可する幼稚園では、普通教室と分けた施設を設けるなどの必要があった。2022年に施設の運営基準が改正されて、フルインクルーシブ教育を実施する土台ができた。

園は今年3月、県から障害児通所支援事業所として指定を受けた。現在、発達障害の疑いがある園児を含め7人を受け入れている。これまでも発達障害の疑いがある園児の受け入れをしてきたが、園児への支援を拡充するためにフルインクルーシブ教育を採り入れた。学校法人長沢学園の長沢弘宣理事長は「周りの園児も発達障害の園児の特性を理解し、互いに成長していくことも期待できる」と話している。

専門資格持つ教諭が援助「特性理解し互いに成長を」

専門の知識を持つ職員が配置されている木田幼稚園＝あま市で